



鳴子☺地域づくりネットワーク
高橋 鉄夫 さん

現在、鳴子☺地域づくりネットワークでは、鳴子まちづくり協議会とともに、鳴子ダムの選奨土木遺産認定を目指し、市内外でPR活動を展開しています。

水害への備え、かんがい用水、発電と、鳴子ダムがわたしたちの暮らしにもたらす効果は大きく、ダム周辺で保全される自然環境は、多くの人をひきつけ、地方創生、交流人口拡大の観点からも、重要な施設です。

わたしたち市民の宝である鳴子ダムを後世まで守り伝えていくためにも、選奨土木遺産認定に向け、皆様のご支援をお願いします。



1 ダム本体のコンクリート打設の様子(昭和31年6月頃撮影)
2 ダム天端部分の工事の様子(昭和31年12月頃撮影)
3 完成間近な鳴子ダムの様子(昭和32年5月頃撮影)
4 5 鳴子温泉地域の皆さん100人が参加しての勉強会の様子(平成27年11月19日実施)

鳴子ダムの「選奨土木遺産」認定を目指して

今から58年前の昭和32年10月に完成し、江合川の洪水防止、大崎平野への農業用水の供給、発電を担う多目的ダムとして、重要な役割を担ってきた鳴子ダム。新緑や紅葉の季節には、多くの皆さんが訪れる観光スポットでもあります。

わたしたちの生活を守り、多くの恵みをもたらしてきた鳴子ダムは、もうすぐ人間でいう還暦を迎えようとしています。わたしたちにとって有益なこの土木施設を後世へとつないでいくため、選奨土木遺産への認定に向けた取り組みが、鳴子温泉地域を中心に始まっています。

今回は、鳴子ダムの歴史や特徴、果たしてきた役割、選奨土木遺産についてお知らせします。

☎ 鳴子総合支所地域振興課 ☎ 82-2191



氾濫を繰り返す暴れ川からまちを守る

鳴子ダムが無かったころの江合川(荒雄川)は、いわゆる「暴れ川」として知られ、大雨が降るたびに氾濫を繰り返しました。特に、明治43年の大雨では、鳴子温泉地域で多くの死者や行方不明者が出る大災害となりました。

また、昭和22年から昭和24年にかけて、カスリン台風(昭和22年)、アイオン台風(昭和23年)、キティ台風(昭和24年)が発生。昭和25年に発生した

豪雨もあり、4年連続で水害が発生し、江合川流域では復旧作業が追い付かず、普通の生活ができないほどの被害となりました。

こうした状況を受け、国(建設省)現国土交通省は、江合川の洪水調節や日本有数の穀倉地帯である大崎平野への水の供給、水力発電などもできる多目的ダムの建設を決定し、昭和27年4月から工事が始まりまし

日本人だけで造られた初めてのアーチダム

鳴子ダムは、東北初の「アーチコンクリートダム」です。国内のダム建設草創期は、外国の技術者を招き、その指導のもとに建設することが当たり前でしたが、鳴子ダム建設では、優れた日本人技術者が全国から集められ、日本で初めて、日本人だけの手で建設が進められました。

中央部が上流側に弓形に張り出したアーチ状の美しい形は、頑丈でせまい谷の形状を利用して、兩岸の山腹に水圧を分散させるためです。工事は、道具や材料を運ぶ道路づくりから始まり、幾多の困難を乗り越え、5年後の昭和32年10月12日、先進の純国産ダムが完成しました。

3つの大きな役割

鳴子ダムには、3つの大きな役割があります。

1つ目は、江合川流域の「洪水調節」です。大雨や豪雨のと

きは、下流域が洪水にならないよう、ダム湖に雨水を溜めるなどして、江合川の流量をコントロールしています。

3つ目が、「発電」です。鳴子ダム発電所では、水が高いところから流れ落ちる力を利用して水車を回し、発電機を回転させて電気を作る「水力発電」が行われています。

2つ目は、「農業用水の供給」です。日本有数の米どころ大崎平野を潤す「かんがい用水」として、田んぼに水を供給しています。

現在では、1日に1万5千世帯の電力消費がまかなえる電力を生み出しています。

選奨土木遺産とは？

選奨土木遺産制度は、優れた土木遺産の保存を目的として、公益財団法人土木学会が、平成12年に設けた表彰制度です。平成26年度までに全国の302施設が認定されています。

の導入など、②社会に果たした役割、③技術者の尽力・先見性・使命感などの視点、④まちづくりへの活用性などが考慮され選定されます。

竣工からおおむね、50年以上たった現存する土木施設のうち、①工学的機能(先進技術

認定された土木施設は、知名度が上がることで、まちづくりへの活用や、観光資源として、一層の誘客が期待されます。

認定に向けて皆さんの後押しを！

日本で初めて、日本人だけの手によって造り上げられ、江合川流域の人々の生命や財産を守り、観光資源として多くの人々をひきつける鳴子ダムは、まさに土木遺産にふさわしいものです。

現在、鳴子温泉地域の皆さん

んが中心となり、選奨土木遺産認定に向けた活動を展開しています。認定には、市全体の盛り上がりが必要で、3月に申請を行います。3月に申請を行い、認定の可否は秋ごろに決定する予定です。市民皆さんの力強い後押しをお願いします。